

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.19 2013年10月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■ゼネテックのクラウド型「GCgate/Web会議システム」、モバイル端末に対応

株式会社ゼネテック（東京都新宿区）は、クラウド型「GCgate/Web会議システム」を、モバイル端末でも利用できるサービスの提供を開始した。（10月7日）

今までPCブラウザ上で提供されていた機能が、iPhone や iPad、Android のスマートフォンやタブレットでも利用できるようになった。会議スケジュールの確認や、会議参加だけでなく、新しい会議の予約やゲストを招待することもできる。また、これらの機能は PC ブラウザ上でのサービスと同様に、英語や中国語でも利用できる。

今秋、会議参加の PC 画面に表示している内容を共有できる「デスクトップ共有」や資料共有、ホワイトボード上に記入した内容を保存できる機能等の強化も予定している。

GCgate/Web会議システムは、2013年4月よりクラウド上でのサービスを開始し、順次新機能を提供してきた。100～200kbps 程度の低帯域の通信環境においても、同社の特許技術により資料共有を含め円滑な会議を実施することが可能なのが特長。クラウド型での提供により、利用コストを抑え、“いつでも”、“どこでも”、“安心安全”にコミュニケーションを行うことができるという。

ゼネテックは、28年におよぶソフトウェア・ハードウェア開発実績があるとともに、23年続く多次元 CAD/CAM ソフトウェア・Mastercam の販売実績や、クラウドによるコミュニケーションサービスの提供実績がある独立系 IT カンパニー。担当窓口は同社 IT ソリューション本部ソリューション営業部となっている。

■ポリコムジャパン、中規模企業向けビデオ会議プラットフォーム「Polycom RealPresence Video DualManager 400」を日本市場で提供開始

ポリコムジャパン株式会社（東京都千代田区）は、中規模ビデオネットワーク向け一元管理プラットフォーム「Polycom RealPresence Video DualManager 400」を日本市場で提供開始。（10月1日）

Polycom RealPresence Video DualManager 400 は、ビデオネットワーク上にある最大 400 デバイスを一元管理できるプラットフォーム製品で中規模企業に適した製品。

ビデオリソースの管理と監視を一元化する「Polycom RealPresence Resource Manager」と、ビデオネットワークを仮想化して常にアクセス可能な環境を実現する「Polycom RealPresence DMA 管理アプリケーション」を一台の機器に集約している。

通信コストや管理コストの削減、UC&C コラボレーションの使用の簡素化、異なるネットワークの統合による既存 IT への投資の保護、企業規模の UC&C 実装による効果を最大化するなどのメリットがあるという。

主な特長は以下の通り。（1）最大 400 までのデバイスを、動的に監視、プロビジョニングし、レポートを作成することができる。また、ビデオ・音声・コンテンツによる、最大 150 の同時通話をサポート。

（2）ユニバーサルダイヤルプランにより、どこからでも同じ番号を使用してビデオ会議を開始できる。

（3）H.264 SVC 対応のコラボレーションサーバとの相互運用性により、IT 管理者はシグナルの管理や SIP ベースの SVC 通話の管理が可能となっている。

Polycom RealPresence Video DualManager 400 はポリコムの認定販売代理店を通じて10月1日より提供開始。価格はオープン。

■日本アバイアの RADVISION ビデオ会議システム、新しいバージョン 3.2 を発表

日本アバイア株式会社(東京都港区)は、同社のビデオ会議システム「Scopia XT5000」、「XT4200」、「XT Executive 240」向けに新しいバージョン 3.2 を発表した。(9 月 20 日)
新しいバージョンでは以下の新しい機能が追加された。

(1)「Scopia XT USB Recording」: Scopia XT5000 において USB メモリ/ドライブへの会議録画を行うことができる。また、オプションによって、XT4200、XT Executive 240 においても同様に録画が可能。資料共有映像、ローカル&リモート音声、画面レイアウトも含めて、最大 1080p 解像度で録画(MP4 フォーマット)し USB ディスクに保存する形になる。なお、MP4 ファイルは Windows PC、Mac、Linux システムの標準的なプレーヤーで再生可能。

(2)「Scopia XT カメラスイッチ」: Scopia XT 5000 から最大 4 つのカメラ/HDMI 入力を制御できる(XT 5000 から電源供給)。この機能により、「Avaya Video Collaboration Solution for IP Office」を含むすべての Scopia XT5000 において、最大 4 つの HD カメラ/一般的 HDMI 機器(DVD、メディアプレーヤー)を切り替えて使用することができることになる。なお、Scopia XT カメラスイッチの HDMI ポートに接続された XT カメラは XT ユーザーインターフェイスおよびリモコンから制御することができる。

(3)「Scopia XT アドバンスドカメラ」: Scopia XT アドバンスドカメラは天井取り付けタイプの新型カメラ。20 倍ズーム、1080p30fps に対応する。

(4)「Avaya Aura コール制御」: Scopia XT 端末が Avaya Aura セッションマネージャに直接 SIP にてレジストできるようになった。これにより、Aura のコール制御と簡易ダイアリングで直接制御することが可能になった。

(5)「SIP SRTP/TLS 認証サポート」: TLS(Transport Layer Security)および SRTP(Secure Real-time Transport)プロトコルの実装により、Scopia XT5000/XT4200/XTE240 やその他の SIP 端末間のシグナリングや RTP メディア通信の機密性や認証の一貫性が保障される。TLS(AES 256 キー暗号

化)および SRTP(AES 128 bit key 暗号化)は、SIP 環境において相互接続性のあるセキュアな通信を保障するとしている。

■アイ・ティー・エックス、Web 会議サービス「MORA Video Conference」のバージョンアップを発表

アイ・ティー・エックス株式会社(東京都港区)は、Web 会議サービス「MORA Video Conference(モーラ ビデオカンファレンス)」の新バージョン(Ver11.0: ASP モデル、Ver11.0i: サーバ導入モデル)の販売を開始した。(10 月 2 日)

今回発表された新機能および改良点は以下の通り。

(1) 招待機能の追加: MORA Video Conference ユーザ ID を保有していない社外の方を一時的に招待することが可能になった。ただし、会議室へ同時に入室可能なユーザ数と招待数の合計は、契約ライセンス数以内となる。

(2) コール機能の追加: 自社 Web サイトのボタンをサイト訪問者がクリックすることでコールセンターを呼び出すことができる機能。受付に PC やスマートフォン・タブレット端末を設置し、遠隔地の担当者呼び出ししたりするなど受付業務を代行する仕組みを構築することができる。無人店舗型商品説明や、リモート型外国語通訳サービスなどのシステム構築で利用できる機能という。

(3) 対応映像コーデック変更: 従来、H.264 と M-JPEG の映像コーデックに対応していたが、M-JPEG を廃止し、より圧縮率に優れた H.264 を使用する仕様に変更した。

(4) スマートフォン・タブレット端末対応の改良: スマートフォン・タブレット端末からでも、PC と同様に TCP:443 あるいは TCP:80 ポートを使用したトンネリング接続およびプロキシサーバ経由での接続が可能になった。これまではネットワーク側で許可設定が必要だった。ただし、一部例外もあるため詳細は同社に問い合わせ要。

(5) アプリケーション共有機能の改良(ASP 版ではオプション機能): 従来、会議の議長(開催者)のアプリケーションやデスクトップを参加者へ共有する機能だったが、議長から参

加者に対してアプリケーションやデスクトップの共有を要求し、参加者側のアプリケーションやデスクトップの共有を行うことが可能になった。これにより、議長権を移す手間を軽減した。

(6) 多人数モード会議室機能の強化 (ASP 版ではオプション機能): 従来 1,000 人までとしていた入室可能人数の制限を外し、無制限とした。

MORA Video Conference は、ネットワーク環境とブラウザがあれば利用可能な Web 会議サービス。スマートフォンやタブレットにも対応している。CD 並みの高音質で、資料共有やホワイトボードなど Web 会議に欠かせない機能も、アイコンをクリックするだけ。パソコン操作に不慣れな方も簡単に操作できるサービスという。Web 会議の際は TCP443/80 ポート利用でセキュリティポリシーも考慮されている。

月額 3,150 円/ID 定額制の「ASP モデル」と、カスタマイズが可能な「サーバ導入モデル」の 2 パターンを提供している。

■ブイキューブ、Polycom とのテレビ会議接続機能強化など「V-CUBE サービス」のアップデートを実施

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、Polycom とのテレビ会議接続機能強化など、Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」をはじめとした「V-CUBE」サービスのアップデートを 10 月 4 日に行った。(10 月 4 日)

アップデートは、V-CUBE ミーティングのテレビ会議接続オプション機能の強化による、テレビ会議システムへの資料共有や相互接続の利便性向上など 7 項目が含まれる。

今回の効果は、すでに導入されているテレビ会議システムと、Web 会議サービスを併用した場合でも、同じ資料を見ながら、会議や打ち合わせの実施が可能になるという点にある。

対象製品は、「V-CUBE ミーティング Ver.4.9.4.0」、「V-CUBEドキュメント Ver. 4.9.4.0」、「V-CUBEセールス&サポート Ver. 4.9.4.0」。各製品別のアップデート事項は下

記の通りとなっている。

「V-CUBE ミーティング」: (1) Web 会議サービスのホワイトボード機能で共有している資料を、テレビ会議システム側にも表示させることができる。



(ブイキューブ資料)

(2) 開催中の Web 会議に、テレビ会議システム利用拠点を会議に参加させることができる。(3) Web 会議サービスに接続するアドレスについて、開催会議ごとに生成することができる。(4) 発言許可されていないオーディエンス参加者にもチャット機能の利用が可能。

なお、上記、(1)、(2)と(3)はオプションとなっている。

「V-CUBE ミーティング」「V-CUBE ドキュメント」: (1) 管理者権限で、開催中の会議を強制終了させることができる。(2) 新たにログインした際の会議室のデフォルトレイアウトを 16:9 に変更した。

「V-CUBE ミーティング」「V-CUBE ドキュメント」「V-CUBE セールス&サポート」: 会議の予約の変更時にも、新規に入力した招待者情報をアドレス帳に保存できる。

ブイキューブでは、今後も利用者の利便性を向上させるサービス強化に努めるとしている。

■NTT アイティ、iPhone/iPad を最大 2,000 台まで接続できる Web 会議サービスを新発売

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、Web 会議サービス「ミーティングプラザ 大規模フォーラム」のサービスを開始する。(10 月 9 日)

ミーティングプラザ 大規模フォーラムは、Web 会議システム「MeetingPlaza Mobile」iPhone/iPad 版を、高品質および大規模ユーザに拡張したサービス。iPhone/iPad を最大 2,000 台まで接続できる。

今回の機能拡張と改良では、映像品質や音声品質をデス

タブレット PC の品質により近づけるとともに、Windows クライアントの共有機能を追加した。これにより、WindowsPC と接続した会議での機能差が減り、iPhone/iPad、PC、Mac を多数台数接続し、多人数が参加する討論会議や多人数の聴衆が参加できる大規模会議として利用できるようになった。



30人資料共有画面(例)

多人数 Web 会議画面(例)
(NTT アイティ 資料)

今回の機能拡張と改良については以下の通りとなっている。

(1)ビデオ:最大 32 名のビデオ表示(非表示も可能)が可能で、標準から HD までの送受信が行える。またフレームレートの改善も行っている。

(2)音声:音声遅延制御機能を強化し、音声品質の向上を行っている。

(3)資料共有:Web 共有、ファイル共有、写真共有、アプリケーション共有(受信のみ)の利用が可能になった。

(4)ファイル共有:MS Office、PDF、テキスト、画像等の共有や、その際の事前のファイルアップロードや iTunes を利用したアップロードも可能になった。加えて、iPad 側からもファイル共有機能を開始することが可能になった。

(5)写真共有:撮影した写真やすでに保存されている写真を共有できる。また共有した写真への書き込みも可能。

(6)アプリケーション共有:美しくなめらかな高品質画像の受信ができるようになった。拡大縮小表示が可能となった。

(7)その他機能:他の端末よりマイクボリューム、ビデオ配信・停止の切り替え、帯域測定の起動、ビデオ画質の一括設定などの遠隔制御機能を充実させた。最大 2,000 台までの接続が可能。

このサービスの動作条件については、iPad や iPad mini、iPhone で利用できる。クライアントソフトは AppleStore より無料でダウンロードが可能。また、ミーティングプラザクライアントがインストールされた Windows PC、Mac、Android 端末からもサービスに接続可能。

ただし、Android 端末は同時 10 台まで接続可能となっており、同社によると今後、Android 端末の大規模接続対応を予定しているという。

なお、上記の動作条件についての詳細は同社に確認要。また利用料については、利用時間や参加者数によって別途見積もりとなっている。既存の ASP サービスについては、契約接続範囲内であれば、今回のサービス拡張による価格変更はない。

NTT アイティの「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)」は 3,000 社を超える導入実績を持つ Web 会議。クラウド型サービスとオンプレミス型の 2 形態で提供している。クラウド型は 10 月 16 日、また、オンプレミス型は 12 月上旬ごろに提供開始予定となっている。

製品・サービス動向-海外

■Pexip 社の「Pexip Infinity」、マイクロソフト社の「Microsoft Lync」に対応、既存のビデオ会議とシームレスに接続

Pexip 社のソフトウェアベースのビデオ会議プラットフォーム「Pexip Infinity」がマイクロソフト社の「Microsoft Lync」に対応した。(10 月 6 日)

Pexip Infinity は、ソフトウェアオンリー、仮想化、分散化、相互接続、柔軟なライセンスの 5 の特長を持ったプラットフォームで、導入から利用、そしてシステムの拡張をシンプルに行えるようになっている。

Pexip Infinity が今回 Lync の H.264SVC を実装(interoperable)することで、H.264SVC を、H.263 や H.264、VP8 に変換する機能を提供する。

今回の対応によって、Lync と既存のビデオ会議端末もしくはインフラストラクチャーとの間で、シームレスに相互接続が

可能になった。社内に Lync システムを設置していなくても、Pexip Infinity があればお互いの中でビデオ会議が行える。また、Lync ユーザにとっても、Pexip Infinity を加えることで、Lync クライアント間だけでなく、ビデオ会議の接続先が広がるメリットがある。

■Easymeeting.net 社、セットトップ型テレビ会議システムを発表

米 Easymeeting.net 社は、セットトップ型のテレビ会議システム「Easymeeting TWS」を発表。(9月5日)



Easymeeting TWS (Easymeeting.net 資料)

Easymeeting TWS は、簡単操作が特長で、どの業種もどんな規模の企業にも導入しやすいことを目指した製品。光学 10 倍ズームを搭載した PTZ 広角カメラに、H.264 ハイプロファイル、1080p 解像度、デュアルモニター機能、2つのカメラシェルフ (camera shelves)、3 年間の製品保証 (3-year limited warranty) などがつく。セットアップは簡単ですぐにテレビ会議が行えるようになっている。また、同社の「Easymeeting Cloud」サービスを利用すれば、本体だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンとのテレビ会議も可能という。

Easymeeting.net 社は Avikom 社という音声会議&テレビ会議システム ディストリビュータによって 2006 年に設立された。本社はノルウェーのトロムソにある。また北米本社は、コネチカット州ミスティックにある。その他、スウェーデン スtockホルムにもオフィスがある。販売パートナーは南北アメリカ、欧州中東アフリカ、アジア太平洋地域にある。

Easymeeting TWS の販売開始は 10 月 1 日から。

■ビジネス動向-海外

■Arkadin 社、Didier Jaubert 氏を最高パートナーシップ責任者に任命

フランスの Arkadin 社(アルカディン)は、Didier Jaubert 氏を最高パートナーシップ責任者に任命した。(9月17日)

Didier Jaubert 氏は、アルカディン社の執行役員として、広範なワールドワイドパートナーエコシステムプログラムの責任者となる。パリ本社を拠点に活動する。CEO Oliver de Puymorin 氏の直属となる。

エコシステムプログラムは、アルカディンの音声プラットフォームと自社製品をインテグレートすることで販売チャネルの拡大を目指す IT 企業や、アルカディン社のコラボレーションサービスを、自社ブランド (white label) で販売したい通信事業者を対象としている。

アルカディンに入社する前、2007 年には、Orange Business Services の上級担当副社長に着任し、アウトソーシングやシステムインテグレーション、グローバルな顧客環境での契約、パートナーシップで実績がある。また直近の同上級担当副社長においては、ユニファイドコミュニケーションおよびコラボレーションなどのクラウド型サービスの立ち上げた実績などもある。さらに、IBM での 20 年間では、フランスやアメリカでの営業、グローバルサービス事業部でさまざまな管理職を務めた。エコール・サントラル・パリで工学の学位、パリ大学で経済学の学位を取得。

■クラウド型ビデオ会議サービスの Zoom Video Communications 社、650 万ドル規模のシリーズ B の資金調達を実施

米 Zoom Video Communications 社(カリフォルニア、サンタクララ)は、シリーズ B の資金調達を実施した。(9月24日)

資金調達額は 650 万ドル。Horizons Ventures Hong Kong 社の Li Ka-Shing 氏を筆頭に、Patrick Soon-Shiong 氏や、現在の出資者である Jerry Yang 氏も今回の出資を引き受けた。なお、Li Ka-Shing 氏は、Facebook や Skype、Siri、Waze などに投資した実績がある。また、Horizons Ventures 社の

Bart Swanson 氏は Zoom 社の取締役会に選出された。

同社事業の加速的な成長 (rapid growth) を促進し、クラウドミーティングプラットフォームのリーダーとしての地位を確保・維持していく目的のために投資されるという。

同社は、HD ビデオ、音声、スクリーン共有、そして 25 人までの同時に参加できる「Unified Meeting Experience(UMX)」クラウドサービスを月額 9,99 ドルで提供している。

ビデオ会議システムと、Web ミーティング、そしてモビリティを統合 (unify) したクラウドミーティングの分野におけるパイオニア。最近、設立から 2 年がたった。世界中の 4,500 社のビジネスユーザや 3 百万人が現在、このサービスを利用しているという。

*関連記事: 定期レポート 2012 年 10 月 15 日号、2013 年 3 月 31 日号、2013 年 4 月 30 日号(シリーズ A)。

■Arkadin 社、Momentum Conferencing 社と戦略的パートナーシップを締結

Arkadin 社は、カナダの Momentum Conferencing 社と戦略的パートナーシップを締結した。(10 月 1 日)

今回のパートナーシップは Arkadin 社のグローバルリーチ拡大戦略の一環で、今回 Momentum Conferencing 社と提携することで、カナダにおける Arkadin 社のプレゼンス拡大につながると期待している。また一方で、カナダ市場において強みを持つ Momentum Conferencing 社としては、Arkadin 社の包括的でグローバルなソリューションを活用できるメリットがある。

Momentum Conferencing 社はカナダでも有数のコラボレーションサービス提供事業者 (CSP)。顧客との関係性の構築と維持を目的とした、一般問い合わせやサポートなどもすべて窓口を一元化する (relationship-based single-point-of-contact-service) サービス提供に特長がある。

展示会レポート-国内

■ニューロネット、CEATEC 出展、サービスマップの拡充と販売強化を図る

ニューロネット株式会社 (東京都町田市) は、10 月 1 日から 5 日まで幕張メッセで開催された CEATEC Japan 2013 のクラウドコンピューティングプラザ内に出展。同社の Web 会議やコンタクトセンター、ペーパーレスなど各ソリューションを来場者に紹介・デモを行った。(取材: 10 月 4 日)



写真左: ニューロネットブース

ニューロネットは、2008 年に Web 会議 Web コラボレーション「SaaSBoard Ver1.0」(サーズボード) をリリースし、2010 年には「SaaSBoard/Room」・「SaaSBoard/Collabo」

「SaaSBoard アプライアンスサーバ」、2012 年には「SaaSBoard Ver5.0」、2013 年には高画質 H.264 などに対応した。

一方、SaaSBoard 以外では、スマートフォンで見えるコールセンターシステム「もしもし CONCIERGE (コンシェルジュ)」(2012 年)、100 人が同時書込と音声会話ができるスマートフォン・タブレット対応ペーパーレス会議「Papaar (ペイパー)」(2013 年)、もしもし CONCIERGE の音声版ともいえるクラウド型スマートフォン・コールセンター「Smart CONCIERGE」(2013 年)などを発表した。コールセンターソリューションについては、コールセンターでは必須の機能である ACD に標準で対応している。

同社のサービスは高品質ながら 1ID あたり 1,000 円を切る料金帯のサービスを提供しており、多くのユーザから評価を得ていることから、「政府情報化月間推進会議議長賞」、「東京都トライアル発注認定」、「東京都中小企業振興公社事業

評価」、「第7回CSAJアライアンス大賞 奨励賞」、「ASPIC
アワード先進技術賞」、「中小企業優秀新技術新製品賞」ほか多数の賞を受賞している。



ニューロネット ブースーSaaSBoardなどを展示・デモ

ニューロネットは、代表取締役の前川博文氏(技術士)を筆頭に、技術開発は、国内でトップクラスの研究者として認められている久保田秀和氏(工学博士)が執行役員最高技術責任者として同社の開発を指揮している。また、サービスラインナップの拡充とユーザの増加にともない、同社では営業責任者もあらたに入社し、ニューロネットの今後の事業の拡大を図っていくとしている。

これまで提供するサービスを、Web会議からコールセンター、そしてペーパーレスとラインナップを充実させてきており、今後もユーザニーズに応じて新たなラインナップを予定しているという。

セミナー・展示会情報

<国内>

■会議の効率化を実現!『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程: 10月16日、23日、30日

※すべて水曜日開催。

※全ての日程で13:30-14:30、15:30-16:30の2回開催

※11月の予定もあり。

会場: NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催: 日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

■V-CUBE ミーティング 操作トレーニングセミナー

日時: 10月25日(金)16:00~17:30(受付:15:50~)

会場: ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催: 株式会社ブイキューブ

詳細・申込: <https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/111>

■【“見える”カレッジ】売上はどこで上げるか??

営業会議でしょう! ~売上を上げる営業会議とは…

適切に共有し、課題を明確化し、適正な対策を実現~

日時: 11月7日(木)14:00~16:30(受付:13:30~)

会場: ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催: 株式会社ブイキューブ

詳細・申込: <https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/102>

■【“見える”カレッジ】Web会議サービスの活用メリットとは

~海外拠点や取引先をV-CUBE ミーティングで繋ぐ~

日時: 11月13日(水)14:00~16:30(受付:13:30~)

会場: ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催: 株式会社ブイキューブ

詳細・申込: <https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/103>

■Polycom Day 名古屋・大阪・福岡・東京

つながる・伝わる・広がる ~ ポリコム最新映像コミュニケーション

日時・会場: 名古屋: 11月8日(金)・ミッドランドホール

大阪: 11月12日(火)・梅田センタービル

福岡: 11月14日(木)・TKPカンファレンスシティ博多

東京: 11月20日(水)・ポリコムジャパン

主催: ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

国内その他: <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他: <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は、情報が入り次第、随時掲載しています。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2012年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作: カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

次号もよろしくお願ひ致します。 橋本啓介